

HPV(子宮頸がん)ワクチンが中止になった理由と再開のリスク



2

H P V

(ヒト パピローマ ウイルス)

H P Vは粘膜の接触によって感染するありふれたウイルス。
性経験のある女性の約5～7割はH P V感染経験。
200種類ほどの型がある。(ハイリスク型15種類ほど)

H P Vに感染しても2年以内に90%の人は免疫の力で排除される。
持続感染した一部の人は数年～数十年かけて子宮頸がんに行進する。

子宮頸がん発症に至るのは、H P V感染者の0.15%程度
(※ 99.85%の方は、放っておいてもがんを発症しない)

3

2013.4.28
 参議院議員 はたとともこ

- 【HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の必要性がないことの確認】
 一般女性の16型感染率0.5% + 18型感染率0.2% = 0.7%
 根拠 ファクトシート/ファクトシートが採用した琉球大学論文
- 感染しても90%が自然排出
 従って、「持続感染」は0.7% × 10% = 0.07%
 根拠 厚労委員会議録、健康局長答弁

〜〜持続感染から軽度異形成が何%かは別として（現在資料請求中）〜〜

- 軽度異形成（前がん病変）の90%が自然治癒
 0.07% × 0.1% = 0.007%
 根拠 厚労委員会議録、健康局長答弁

従って一般女性の99.993%は16型・18型の
 中等度・高度異形成にはならない。

4

3, HPVワクチンの評価と特性

2010年12月16日 (平成22
年)

厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会

ワクチン評価に関する小委員会第3回ワクチン評価に関する小委員会 資料6-3 P2
L17
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000000009d->

(4) 実地する際の課題及び留意点について

「検診する際の留意点として、HPVワクチンを接種した集団において子宮頸がんが減少するという効果が期待されるものの、実際に達成されたという確証は未だないことから、現時点では、罹患率・死亡率の減少効果が確認されている細胞診による子宮頸がん検診を適正な体制で行うべきである。」

(3) 医療経済的な評価について

「13歳女子に接種したワクチンが生涯有効であると仮定したとき、費用対効果は高い」と言っています。

「効果がある」のではなく「効果が期待される」といっているのであり、
「達成された証拠はない」と言っている。

英国など子宮頸がんワクチンを接種した世代で子宮頸がんが増加

UK : catastrophic oncologic results

A Casanova is the recent increase in cervical cancer.. Preventive Medicine 107 (2018) 21-28

Incidence per 100,000 women

Age 20-24 ● Age 25-29 ●

11 22

$P < 0.006$

15~19歳の人100%増加(2007年の0.1から2014年の0.2)
20歳から24歳の113%の増加(0.7から1.5)
13歳から17歳のときに80%以上がワクチン接種

6

Aggressive Cervical Cancer on Rise Among Young Women Despite Over 70 Percent Vaccinated: Peer-Reviewed Science

The HPV vaccine has failed to live up to its promise for preventing cancer

米国がん統計プログラム

「ワクチン接種率70%以上にもかかわらず、若い女性の間で進行性子宮頸がんが増加中。HPVVは癌を防ぐという約束に反している」

<https://www.youtube.com/watch?v=8tU1u1e1t80>
<https://www.foxnews.com/health/2019/05/01/cervical-cancer-rising-among-young-women/>
<http://www.theguardian.com/world/2019/may/01/cervical-cancer-rising-among-young-women>



2, 子宮頸がんによる国民の死亡率について

2011年度
(平成23年) 子宮頸がん予防ワクチンを接種される方へ
一般配布資料

1. 子宮頸がんとは
子宮頸がんは
15,000人の
女性に1人の割合で
罹患した症例が
報告されている。多くの女性が一生のうち一度は感染することになるウイルスです。殆どが
HPVには15種類以上のタイプがあり、その中でHPV16と18は子宮頸がんの約80%を占める
タイプです。日本人子宮頸がん患者の約90%がこの2種類のHPVがみつかり
ます。

10歳の子供に接種して効果
があるのは16~7歳まで

8

3, HPVワクチンの評価と特性

資料 Ⅱ-1

The screenshot shows the Cervarix website with the following visible content:

- HPVワクチン製品情報** (HPV Vaccine Product Information)
- サーバリックス製品情報** (Cervarix Product Information)
- グラクソ・スミスクライン社のホームページでHPVワクチン「サーバリックス」の製品情報を見てください** (Please check the product information for the HPV vaccine "Cervarix" on the GlaxoSmithKline company's homepage.)
- 重篤な有害事象発現率は、サーバリックス群4.2%、4価HPVワクチン群で4.0%であった。** (The incidence of severe adverse events was 4.2% for the Cervarix group and 4.0% for the 4-valent HPV vaccine group.)
- 重篤な有害事象発現率を明記** (Clearly state the incidence of severe adverse events)

9

もともとHPVワクチンの重篤報告は 他の定期接種ワクチンの約9倍多かった!!

重篤なつまり入院治療が必要なレベル以上の副反応疑い報告は「はしか」や風疹など他の定期接種12種類の平均値に比べて実に約9倍といふ多さでした。

ワクチン種類	副反応疑い報告数	平均値との倍率
HPVワクチン	3396人 (約1000人に1人)	9.9倍
他の定期接種の合計平均	345人 (約1800人に1人)	8.8倍

これまでに 345 万人が接種して…

副反応疑い報告 3396 人
(約 1000 人に 1 人)

うち重篤 1965 人
(約 1800 人に 1 人)

入院相当以上の深刻で重い症状

※HPV滅活予防接種副反応Webサイト | 「副反応報告頻度の比較 (2020年8月1日分集計作成)」
リーフレット「HPVワクチンのほんとうのこと」

[illegible]